

T T A K

1月15日号
地域連携室発

退院後も

つながります

あなたの

ところとからだ

新年あけましておめでとうございます。新しい年がやってきました。

今年は雪も多く寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

新しい年の幕開け、今年初めてのインタビューにお答え頂いたのは、検査科の山本佐百合さんです。

臨床検査科 山本佐百合さん学会発表！

Q：山本さんこんにちは。

今回はインタビューにお答え頂いて
ありがとうございます。

日本超音波医学会で発表されたそうですが、
山本さんが発表された内容を教えてください。

A：はい。私が発表した内容は

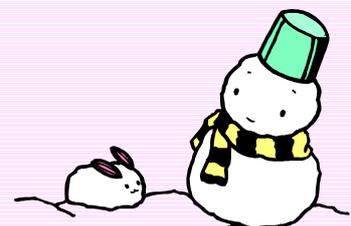
『治療に難渋した
高齢者不完全型心内膜床欠損症の一例』
という題名で、循環器分野の先天性疾患の
グループで症例報告形式にて発表しました。

2005年9月24日に大阪豊中市の千里ライフサイエンスセンターで発表しました。



Q：発表に至ったいきさつを教えてください。初めての発表ではないとお聞きしておりますが？

A：はい。本学会は、年に2回関西地区で開催されており、指導医である植田孝医師より
「勉強になるから」と勧められ発表するようになりました。今回で5回目の参加になります。
演者としては、今回で3回目の参加で、
初めての発表は2004年の2月14日『原発性肺高血圧症の一例』という題名で、
2回目は、同年の8月28日に『右房内に可動性嚢胞性腫瘍を認めた一例』という題名で
発表しました。



Q：3回目の発表となると回数を重ねるごとに慣れてきたのではないのでしょうか？
今回の発表に関しての感想などお願いします。

A：いえ、毎回発表には気を遣います。本学会の発表は口演時間が5分間と短く、その限られた時間の中に内容をまとめることが大変難しいです。
また、会場では心エコーの達人(多くは循環器医師)がたくさん集まっており、質問や意見をぶつけようと手ぐすね引いて待ち受けているような印象があります。ですから発表に落ち度がないか、またどのような質問を受けそうかなど、前準備に気を遣います。
それに加え、この学会開催日がいつも土曜日であるため指導医不在のまま発表に望んでいます。播磨病院の名を汚さないかいつもヒヤヒヤしています。
しかし、今回の発表では難しい質問は出ず、むしろ知らなかった情報を教えていただき、良い経験になりました。

Q：そうですか。それでは最後に、今後の抱負を教えてください。

A：今後もこの発表は植田先生の指導の下、できる限り続けていくことになると思います。
発表の形式がコンピュータープレゼンテーションのため、毎回総務の加藤さん、平形さん、内科の坂口先生にはお世話になりご迷惑をお掛けしています。この場をお借りしてお礼申し上げます。
今後ともよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

いかがでしたか？

山本さんは、同じ検査科の岸元さんと協力して研究し発表しているそうです。今後の活動も期待しています。頑張ってください。



さて、次回の T-TAK 新聞は…
事務グループ 田渕成昭さんで、
『診療情報管理士』についてです。

皆さま、風邪などひかず
寒い冬を乗り切ってください。

では、次回をお楽しみに～！